

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Change in Cholesterol Level During Pregnancy and Risk of Postpartum Depressive Symptoms: the JECS Study

和文タイトル:

妊娠期のコレステロール値の変化と産後うつ病のリスク予測:JECS 研究

ユニットセンター(UC)等名: 富山ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Acta Psychiatrica Scandinavica

年: 2022 DOI: 10.1111/acps.13393

筆頭著者名: 陸田 典和

所属 UC 名: 富山ユニットセンター

目的:

産後抑うつ症状(PDS)を有する女性は、産後うつ病(PPD)に移行するリスクが高いとされている。これまでの研究で、総コレステロール(TC)値とPPDとの関連が示唆されているが、各研究の結果は必ずしも一致してない。本研究では、妊娠中の血清 TC 値および変化量と PDS のリスクとの関連を検討した。

方法:

エコチル調査参加者(妊婦)の血清 TC と PDS との関連を解析した(n=61,585~72,406 名)。TC は妊娠初期、中後期、出産時の 3 時点で測定し、TC の変化について、妊娠初期から中後期、妊娠中後期から出産、および妊娠初期から出産まで 3 つの期間別に計算した。また、PDS は出産 1 か月および 6 か月時にエジンバラ産後うつ病質問票を用いて測定した。

結果:

多変量ロジスティック回帰分析の結果、妊娠中後期の TC の第 1 五分位(最も低い群)に比較すると、第 2 五分位において産後 6 か月の PDS の割合が高くなったが、その他においては特に関連は認められなかった。TC の変化が最も少ない群に比べて、妊娠中後期から出産時もしくは妊娠初期から出産時の変化(上昇)がある群では、産後 1 か月の PDS の割合が低かった。また、妊娠初期から中後期もしくは妊娠初期から出産時の TC の変化(上昇)があった群では、産後 6 か月の PDS の割合が低かった。

考察(研究の限界を含める):

本研究の結果から、妊娠中の TC 上昇が PDS のリスク低下と関連することが示唆された。先行研究では、出産時周辺あるいは産後における TC の減少(変化)と PPD との関連を検証した研究はいくつかあるが、我々の知る限り、妊娠中の TC の変化と PDS のリスクの関連を検証したのは、本研究が初めてである。研究の限界としては、エジンバラ産後うつ病質問票を用いたために、PPD(診断)ではなく PDS(症状)を見ているという点、3 万人以上の女性を除外しているため、選択バイアスが生じている可能性がある点、今回の結果が日本人以外の集団でも適用できるかは不明である点が挙げられる。

結論:

妊娠中の血清 TC の上昇は PDS 発生のリスク低下と関連した。妊娠中から出産時までの血清 TC の変化をトラッキングすることで、PDS のハイリスク集団を特定できる可能性が示唆された。